豊橋の戦争遺跡

第15師団司令部庁舎（現愛知大学記念館　国登録文化財）

豊橋市教育委員会

戦争遺跡とは?

戦争遺跡は、近代(明治1年(1868) —昭和20年(1945))の、軍隊や戦争に係り、現在でも残っている跡のことです。敷地や場所のように、土地と切り離すことができないものと、兵器や器材、生活品(衣服、食器)などのように、動かすことができるものを含める場合もあります。普通は建物や跡地のことを指し、具体的には次のようなものがあります。①中央の役所、師団のような地方の衛戍地、学校、研究所、演習場など、②要塞、飛行場、高射砲陣地、特攻基地など戦闘施設、③生産、貯蔵施設、④鉄道、道路、軍港など、⑤病院、保養施設、俘虜収容所、⑥陸軍墓地、海軍墓地などの埋葬地、⑦戦闘地や空襲被災地、⑧忠魂碑や防空壕等。

日本では、すでに弥生時代には戦いがあったといわれ、古墳にも多くの鉄製武器が副葬されています。古代から近世にかけても多くの戦いや争いがありました。こうした戦いや古戦場、城郭などの研究は、古文書や絵図などを利用する歴史学、遺跡の調査をもとにする考古学の中で取り組まれています。

近代以降の戦争の研究は、専ら歴史学で行われてきましたが、近年になり、具体的な大きさや形がわかる戦争遺跡が注目されるようになってきました。

また、発掘調査により、地下に埋もれていた遺構や遺物が見つかることもあります。

豊橋の戦争遺跡の特色

市内には、陸軍の歩兵第18聯隊や第15師団が置かれたことから、明治時代の建造物も残っています。第15師団長官舎は市指定文化財、第15師団司令部庁舎は国登録有形文化財に登録されています。建物はなくても敷地が当時の道路区画のまま利用されている所もあります。

第15師団のために建設された高山浄水場のように、現在も市民の水道水として利用されているように、遺跡といっても活用されているものもあります。

昭和19年から20年かけて(太平洋戦争中)には、本土決戦に備えて東部の山地や表浜海岸一帯に多くの陣地が構築され、その跡が残っています。

市内の戦争遺跡から、明治時代から太平洋戦争中までの軍隊や戦争の移り変わりを知ることができます。

軍都豊橋

◆歩兵第18聯隊（れんたい）

今橋町にある豊橋公園（吉田城址）には、歩兵第18聯隊の兵舎がありました。この歩兵第18聯隊は、明治17年（1884）6月、名古屋で新設されました。これに合わせて吉田城址に兵舎の建設が進められ、明治18年4月に大半が竣工しました。こうして名古屋から豊橋へ移って来ました。

歩兵第18聯隊は、日清戦争（明治27～28年）、日露戦争（明治37～38年）、第1次満洲警備（大正10～12年）、山東出兵（昭和3～4年）、第2次満洲警備（昭和9～11年）、日中戦争（昭和12年～16年）、太平洋戦争（昭和16年～20年）と戦場へ出動しました。

絵葉書　歩兵第18聯隊（明治39年頃の正門）

灰捨場（今橋町　豊橋公園）
兵舎での生活で出たごみの焼却灰を捨てるところと思われます。今はコンクリートで塞がれていますが、丸い穴から捨て、裏側から灰を掻きだし堀に落ちるようになっています。

門と哨舎（しょうしゃ）（今橋町　豊橋公園）
18聯隊の正門で、当初は木製の門柱と哨舎でした。明治42年にレンガ製、昭和10年代になってコンクリート製に替わったようです。

弾薬庫（今橋町　豊橋公園）
正門を入って右手の一角に弾薬庫がありました。弾薬庫は、中に収める弾薬の火薬が湿気を嫌うことから、火薬の乾燥を保つための工夫として、床下が風通しよくなっています。また爆発した際、爆風が上方に抜けるように、壁は強固、屋根は簡素な作りになっています。

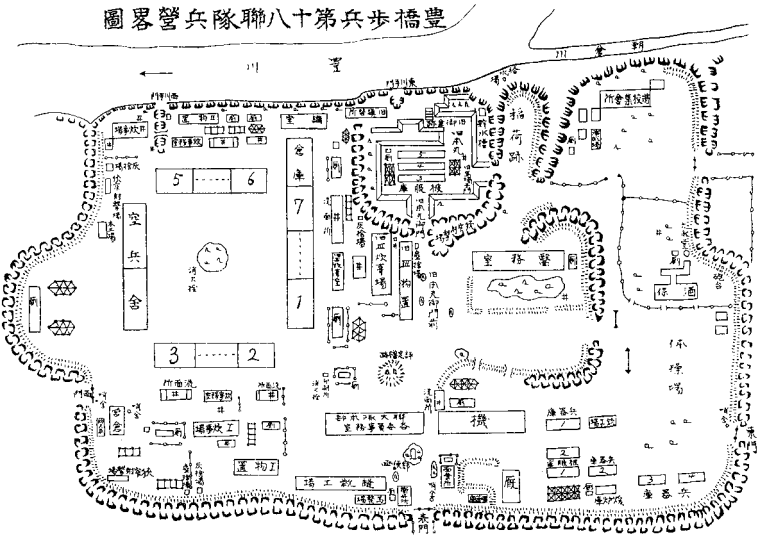
貯水槽（今橋町　豊橋公園）
建物配置図をみると、土塁の上に貯水槽を置いていたようです。現在はコンクリート製平坦面があり、ここにあったと思われます。用途ははっきりしませんが、防火用水であったのでしょうか。

聯隊記念碑（今橋町　豊橋公園）

「記念樹」碑（今橋町　豊橋公園）
裏面に「昭和五年兵」と刻まれています。

西門門柱（今橋町　豊橋公園）
国道1号線の工事に伴い現在の場所に移設されています。

絵葉書　兵舎の一部（昭和初期）



建物配置図（大正後期頃）　「歩兵第十八聯隊写真帳」より転載

◆ 発掘された遺構と遺物

吉田城址の発掘調査では、建物の基礎や防空壕、暗渠、使用していた食器なども出土します。

大隊本部の基礎

食器
磁器製食器は、陸軍省が瀬戸や名古屋の製陶業者に注文し、納品されたものと思われます。

◆ 軍人記念碑と神武天皇銅像

本丸の東側、金柑丸には、聯隊の営内神社（弥健神社）がありました。その場所に現在、神武天皇銅像があります。この像は、もともと軍人記念碑の上に建てられていたものです。

軍人記念碑は、歩兵第18聯隊の活躍と功績、戦没者の追悼のため、明治24年（1891）8月以来、豊橋の政財界の人々により企画されました。しかし、なかなか建てるまでに至らず、日清戦争が終わった後の明治32年3月、八町錬兵場正面（現在の八町通4丁目）に竣工しました。しかし、大正5年（1916）には、練兵場の北側に移されました。

現在、軍人記念碑は残っていませんが、記念碑の正面両側に立っていた銅板の碑2基は、陸軍墓地にあります。碑には戊辰戦争、西南戦争、日清戦争の戦死者281人、西南戦争、日清戦争の戦病死者504人が書かれています。また、この碑を囲む基壇の柵柱には、建設に尽力した政財界の人の名前が刻まれています。

絵葉書　神武天皇銅像（明治末頃）
両脇に見える銅板碑は陸軍墓地に移設されています。

神武天皇像(今橋町　豊橋公園)

銅板碑（東田町　陸軍墓地）

弥健神社（今橋町　豊橋公園）

◆ 豊橋陸軍墓地

歩兵第18聯隊の兵営が造られたのと同時に、市街地や兵営を見下ろす東田の丘の上に2,000坪の陸軍墓地が設けられました。

初めは陸軍埋葬地と呼ばれ、兵卒の平時死亡者のために設けられましたが、次第に将校も葬られるようになりました。昭和13年（1938）から陸軍墓地と呼ばれるようになり、合葬塔が建立されていきました。

墓地には兵卒・下士官の墓52基、将校の墓31基、清国俘虜の墓1基、馬の塚3基、日露戦争の合葬墓5基、「北満洲忠死者之碑」、「昭和三年支那事変忠死者之碑」などがあります。

陸軍墓地（東田町）
以前は西南側に入口がありましたが、昭和57年に西半分を公園とするため、東半分に移転しました。大きな墓碑は西を向いていましたが、東に向きが変わっています。

陸軍墓地
手前の左端は兵卒、右側は下士官、背後の大きな墓は将校の墓です。階級差が墓石の規格にも反映されました。

将校の馬の塚
日清戦争に出動した聯隊長、副官、第2大隊長乗馬の塚です。

◆第15師団

日露戦争後の明治40年（1907）、陸軍は戦争中大陸で編成された第15師団を帰還後豊橋に置くことを決めました。豊橋に誘致することができたのは、広大な高師原・天伯原演習場が大陸で行う戦場に似ていたことが決めてとなったようです。

兵営は、約50万坪の敷地がありました。田原街道（現在の国道259号線、以下同じ）に面して東側に北から歩兵第60聯隊（北丘町、町畑町）、第15師団司令部（北丘町）、兵器支廠（北山町）、西側に憲兵隊本部（富本町）、野砲兵第21聯隊（富本町）、輜重兵第15大隊（草間町）、その西側に北側から騎兵第19聯隊（橋良町）、騎兵第25聯隊（橋良町ほか）騎兵第26聯隊（草間町）、少し離れて衛戍（えいじゅ）病院（一色町）、衛戍監獄がありました。このほか向山町に工兵第15大隊が置かれました。これらの敷地の多くは学校や公共施設になっています。

第15師団司令部庁舎（国登録文化財）（町畑町　愛知大学）

将校集会所（町畑町　愛知大学）

師団長官舎（市指定文化財）（石塚町　愛知大学公館）

第3師団兵器部豊橋出張所　門（北山町　南部中学校）

輜重兵第15大隊　門（草間町　豊橋工業高校）
豊橋工業高校の道沿いに門柱が残されています。

騎兵第26聯隊　門と哨舎（中野町　王ヶ崎東公園）
現在は王ヶ崎東公園に移築されています。

絵葉書　第15師団の配置（昭和2年以降の写真である）

◆ 豊橋陸軍教導学校・豊橋陸軍予備士官学校

第1次世界大戦の後、軍縮の時代を迎えました。陸軍では、この機会に不要となった歩兵や騎兵などの人員や予算を削り、第1次世界大戦で新しく登場した飛行機や戦車、高射砲の教育や研究をすることになりました。

第15師団は大正14年（1925）4月19日、廃止になりましたが、師団司令部や歩兵第60聯隊などの兵舎を使用して、昭和2年（1927）8月1日、下士官候補者の教育を行うために豊橋陸軍教導学校が開校しました。また、豊橋陸軍予備士官学校は、甲種幹部候補生教育のため、昭和14年8月1日に教導学校内に開設されました。

絵葉書の戦車は、陸軍教導学校（現 愛知大学）校庭での演習風景です。教導学校や予備士官学校では、高師原・天伯演習場で厳しい訓練が行われました。

絵葉書　第十五師団兵器支廠
新設した頃の正門付近

絵葉書　豊橋陸軍教導学校校庭における訓練
右奥の建物は下の写真の大講堂

第3師団兵器部豊橋出張所　正門と哨舎
（町畑町　南部中学校）

大講堂（町畑町　現愛知大学第2体育館）

◆ 高師原陸軍演習廠舎・高師原・天伯原陸軍演習場

高師原・天伯原陸軍演習場は、豊橋の歩兵第18聯隊や第15師団の将兵のほか、名古屋や浜松等の部隊の将兵が訓練に来ました。そのため、寝泊りする所として高師原陸軍演習廠舎が用意されました。廠舎の建物はありませんが、口の字形に造られた土塁が高師緑地公園東端付近に残っています。

土塁（高師町　高師緑地公園）
土塁の内側には、弾薬庫など危険物を納めていたと考えられます。

大正頃の高師原演習場と軍用地（緑色部分）

◆ 工兵隊の作業場

向山緑地公園の丘は、工兵隊の作業場でした。訓練用のトーチカが残っています。

訓練用トーチカ（向山町　向山緑地公園）
銃眼が3か所開いています。トーチカの上には「豊橋工兵隊の跡碑」が建てられています。

絵葉書　天伯原演習場　演習風景　大正7年
第1次世界大戦で飛行機が登場したことから、壕も形状や掘削方法が研究されていったようです。

市内に残る戦争関連碑

◆ 市内各地にある碑

市内には、戦地から無事帰還した記念に奉納した石造物や戦死者の名前を刻んだ碑があります。

◆「皇国全勝　祈出征軍人健康」碑

牟呂町の牟呂八幡社の境内には、表側に「皇国全勝　祈出征軍人健康」、裏側に「明治三十七年六月　牟呂村　大西青年中」と刻まれた碑があります。

この碑は、日露戦争が明治37年（1904）2月に始まってまもなくの頃、牟呂村大字大西に住む青年により、戦地で戦う兵士の健康を祈って建てられたことがわかります。

しかし、準備していた頃、5月25日の戦闘は激しく、歩兵第18聯隊の属する第3師団では、36,400人のうち、4,387人の死傷者が出ました（中国遼東半島、南山付近の戦い）。

（牟呂町　牟呂八幡社）

◆ 社標に刻まれた「為世界平和克復記念之」

湊町にある神明社の社標には、表に「神明社」と大きく刻まれ、左側面に「為世界平和克復記念之」、裏面に「大正八年九月湊出身田中市次郎建之」と刻まれています。大正8年（1919）9月に建てられていますので、第1次世界大戦が1月に終結したのを機に、世界に平和が戻ってきたことを喜び建てたのでしょう。

（湊町　神明社）

西征陣亡六士之碑
（賀茂町　賀茂神社）
この碑は、西南戦争に出動し亡くなったた八名郡出身者6名のことが書かれています。

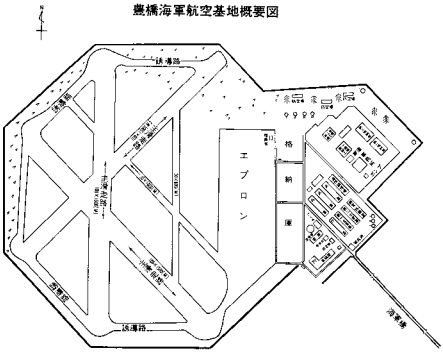
幟立（湊町　神明社）
書かれていることから、日清戦争から無事帰還した記念に奉納したようです。

海軍の基地

◆ 豊橋海軍航空隊基地

明海町には、海軍の飛行場がありました。遠浅の海を埋め立てて造られ、昭和18年(1943)4月ほぼ完成しました。海軍屈指、かつ国内唯一の海上飛行場でした。1500m3本の滑走路と戦闘機用1000m滑走路がありました。

海軍橋(大崎町)
道路は拡張され2車線になっているため、北側の欄干と橋が当時のものです。橋の下から見ると違いがよくわかります。



豊橋海軍航空隊基地概要図(『大崎島』 1977)

発掘調査された土塁(船渡町)
航空隊では、本土決戦準備のため、多くの兵器、弾薬、資材などが対岸の大崎城址付近の崖に壕を掘って保管されました。この土塁は、露天で保管した物資が目立たないように目隠しの役目で築かれたようです。

海軍橋の名残が交差点の名前に残っています。(明海町)

豊橋海軍航空隊基地空中写真
昭和20年8月29日撮影　田原市博物館蔵

本土決戦準備

◆ 第73師団

太平洋戦争は、昭和17年（1942）6月のミッドウェー海戦以降、アメリカ軍の攻勢が激しくなりました。政府は本土の防衛線として考えていたサイパン島やグアム島が昭和19年夏に陥落すると、本土への侵攻も現実を帯びてきたと考えるようになりました。そこで新たな部隊を編成して、アメリカ軍の上陸が予想される本土沿岸部に陣地構築を行うことにしました。

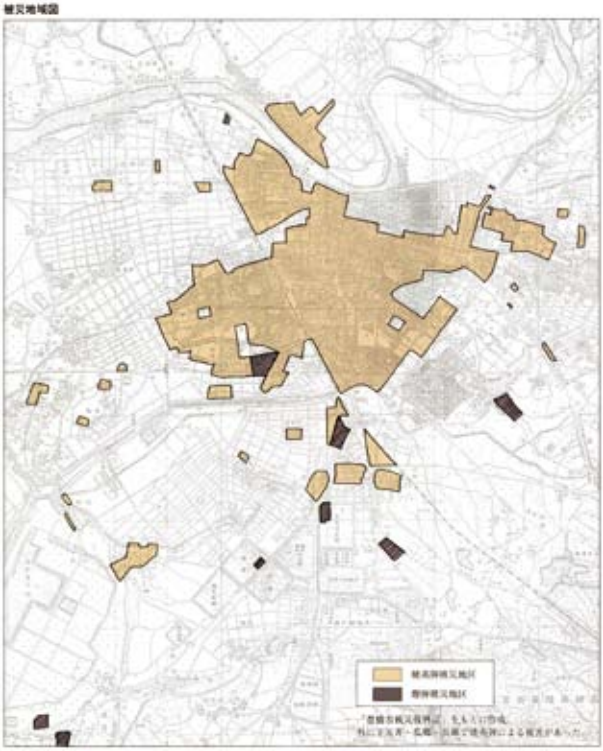
中部地方では、昭和19年7月に名古屋で編成された第73師団がその任務に付きました。同年11月に伊良湖岬から浜名湖西岸で陣地構築を始めました。アメリカ軍が表浜の海岸に上陸した場合に備え、攻撃する砲台や銃座などを丘陵崖端に配置し、二川町、大岩町付近を最後の抵抗拠点とする作戦をたてました。また、多米や石巻では、山裾に物資の保管場所を構築しました。馬越長火塚古墳の横穴式石室も保管場所として利用したようです。

昭和20年6月には、完成した陣地を使用して演習を行っています。しかし、実際にアメリカ軍が上陸することなく終戦を迎えました。

24糎榴弾砲陣地（大岩町　岩屋緑地）
大蔵山の北斜面に24糎榴弾砲（せんちりゅうだんほう）3門の砲座のほか、交通壕や棲息壕（せいそくごう）が構築されました。この大砲は、山越えで表浜に向けて射撃するために備えられました。

交通壕（西赤沢町　貴船神社）
貴船神社の森には、交通壕と呼ぶ溝が残っています。この壕は北に向かっていることから、上陸した敵の背後から攻撃しようとしていたと考えられます。

豊橋空襲と豊川海軍工廠の空襲



空襲被災地図

アメリカ軍は、昭和19年（1944）6月16日、B29戦略爆撃機により福岡県の八幡製鉄所を初めて空襲しました。以後、本土の軍需工場や都市が空襲されるようになりました。

豊橋市は、昭和20年（1945）6月19日深夜から翌20日未明にかけて、B29により空襲を受けました。一夜にして市街地の90％が焼け野原となり、624人の市民が亡くなりました。

また、豊川海軍工廠では、昭和20年（1945）8月7日の空襲により2,500人以上の人が犠牲となり、学徒勤労動員されていた県立豊橋中学校はじめ豊橋桜ケ丘高等女学校、豊橋松繰高等女学校など10校の生徒や前芝国民学校の児童も亡くなっています。

供養塔（豊川市緑町　稲荷公園）
基壇には昭和19年10月から昭和20年10月までの戦没者の名前が刻まれています。

空襲記念碑（湊町　湊町公園）

■年表

西暦	年号		日本と世界のできごと　豊橋市のできごと
1868	慶応 4	1 月	戊辰戦争始まる。
1873	明治 6	1 月	徴兵令施行される。
1877	明治10	2 月	西南戦争始まる。
1884	明治17		歩兵第18聯隊創設される。
1888	明治21	9 月	東海道線の開通にともない豊橋駅開業する。
1894	明治27	8 月	日清戦争始まる。
1899	明治32	3 月	軍人記念碑竣工される。
1904	明治37	2 月	日露戦争始まる。
1905	明治38	5 月	日本海海戦。9月ポーツマス条約調印。,5月豊橋俘虜収容所高師原収容場。
1906	明治39	8 月	豊橋市制施行される。
1907	明治40		第15師団を豊橋に設置することが決まる。
1908	明治41	11月	第15師団が豊橋に開設される。
1911	明治44		師団長官舎竣工する。
1914	大正 3	8 月	第1次世界大戦に日本参戦する。
1916	大正 5		軍人記念碑練兵場へ移設される。
1919	大正 8	6 月	ベルサイユ条約調印し大戦終結する。
1921	大正10		歩兵第18聯隊第1次満州警備に出動する。(～ 1923)
1922	大正11	2 月	ワシントン海軍軍縮条約調印する。
1925	大正14	4 月	第15師団廃止(宇垣軍縮)される。7月市電が開通する。
1927	昭和 2		豊橋陸軍教導学校設置される。
1928	昭和 3		歩兵第18聯隊山東出兵。(～ 1929)
1931	昭和 6	9 月	満州事変がおきる。
1934	昭和 9		歩兵第18聯隊第2次満州警備に出動する。(～ 1936)
1937	昭和12	7 月	日中戦争始まる。8月歩兵第18聯隊中国に出動する。
1939	昭和14		豊橋陸軍予備士官学校設置される。
1941	昭和16	12月	太平洋戦争始まる。
1943	昭和18	4 月	豊橋海軍航空隊基地完成する。
1944	昭和19		歩兵第18聯隊中部太平洋方面に出動する。
1944	昭和19	7 月	グアム島で歩兵第18聯隊全滅する。
1945	昭和20	6 月	豊橋が空襲をうける。
1945	昭和20	8月	8月7日豊川海軍工廠が爆撃をうける。8月15日終戦。

平和の塔（向山町　向山緑地公園）

この塔は、日清戦争以後の幾たびかの戦いに、祖国の勝利と繁栄を信じて尊い生命を捧げられた戦没者と空襲などによる犠牲者を追悼し、ひたすら世界の恒久平和を念願し、再び戦争の惨禍を繰り返さないよう平和の祈りを込め、昭和40年９月終戦20周年記念事業として、豊橋平和の塔建設奉賛会を組織し広く市民の協力を得て建立し、今回終戦50周年を期して一部補修したものであります。

平成7年8月吉日　豊橋市

発行日● 平成26年（2014）3月31日
作　成● 株式会社C-ファクトリー
発　行● 豊橋市教育委員会
協　力● 愛知大学、田原市博物館、伊藤厚史
問合先● 豊橋市文化財センター　TEL56-6060　FAX52-2961